

解 答

1 (C)	2 (C)	3 (A)	4 (D)	5 (B)	6 (C)
7 (D)	8 (B)	9 (B)	10 (C)	11 (C)	12 (D)
13 (A)	14 (B)	15 (A)	16 (A)	17 (B)	18 (C)
19 (D)	20 (D)				

1. 「この10年間で、リッチー氏の家の値段は倍になった」
 ▶ (C)in「(期間)で」時の経過を表す前置詞。(D)atは後ろに時の一点(at five o'clockなど)を表す語句がくるため不可。
 [例] I think he'll be a millionaire **in** a year. [in…時の経過]
 (1年後には、彼は大金持ちになっていると思います。)
 [例] The meetings usually begin **at** ten. [at…時の一点]
 (会議はふつう10時に始まる。)
2. 「私たちが先週研究したテーマと今週研究するテーマの間にはつながりはない」
 ▶ between A and B「AとBの間に」
 ▶ (A)amongは「～の間に」の意味であるが、A and Bを続けることはできない。
 (D)withinは「(期間)以内に」の意味。

■betweenとamongの使い分け

between 「(2つのものの)間で」**among** 「(3つ以上のものの)間で[に]/～の中で」▶ 3つ以上の場合でも個別関係を示すときは**between**が使われる。[例] trade **between** the three countries 「3国間貿易」

3. 「定期的に運動をしている人の寿命は、していない人よりも長い」
 ▶ thatは单数の名詞を受ける代名詞で、the life expectancy「平均寿命」を受けている。thoseは複数の名詞を受ける代名詞であるため不可。
 [例] The human brain is more advanced than **that** of the chimpanzee.
 (人間の脳はチンパンジーの脳よりも発達している。)
 [例] The ears of an African elephant are bigger than **those** of an Indian elephant.
 (アフリカ象の耳はインド象の耳よりも大きい。)
4. 「サンズ教授は君がまた遅刻したので怒っているよ。僕なら、時間通りに授業に行くようにするだろうに」
 ▶ 仮定法過去の形 If I were you で始まっているため、would doを続ける。仮定法過去は現在の事実に反する仮定を表す。(B)could comeも仮定法過去だが、「来ることができんだろう」の意味で文脈に合わない。
 □ **be angry with** ~「～に腹を立てる」
 He was angry with himself for trusting his boss.
 (彼は上司を信頼したことで自分自身に腹を立てた。)

5. 「鈴木教授が学生たちに映画を見たいかと尋ねると、全員が手を挙げた」
 ▶ all (of) the ~で「(特定の名詞のうち)すべての～」の意味。
 ▶ (A)は almost all (of) ~、(C)は most of ~とすれば成り立つ。(D)は a lot of ~とすれば正しい形だが、後ろには通例、theなどのつかない不特定の名詞が続く。
 □ **all (of) the + 名詞** 「すべての～」

All the members of this club must attend the meeting.

(このクラブの部員は全員、会議に出なければならぬ。)

▶ 名詞を修飾するとき、定冠詞よりも前に出る語がある。

all/both/half/doubleなどを使う場合は、次のようにする。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ○ all the books | × the all books |
| ○ both the students | × the both students |

これはもともと, all **of** the books という表現で, of が脱落したものである。all books という形も用いられる。

6. 「まだ、もういくつかお菓子を買う必要があると思います。それ以外は、すべてパーティーの準備はできています」
► **other than** ~「~以外は」
[例] She doesn't respect any person **other than** mother.
(彼女は母親以外のどんな人にも敬意を払わない。)
► (A)beyond には「~を除いて」の意味もあるが、通例、否定文で用いるため不可。
(B)as well as ~「~と同様に」、(D)は「それらのうちのもう一つ」の意味で、後ろの内容につながらない。
7. 「アレックスがこのプロジェクトを仕上げるのにそんなに長くかかると知っていたら、彼にその仕事を与えなかっただろう」
► 主節が wouldn't have given ~とあるので、仮定法過去完了の文と判断できる。If I had known ~の if を省略して、Had I known ~という倒置になっている(D)が正解。

if を省略した仮定法

仮定法における if を省略すると倒置が起こり、疑問文と同じ語順になる。ただし、主語の前に置かれるのは原則として **were/had/should** の 3 つに限られる。

If I could fly → ×Could I fly If I knew it → ×Did I know it

- (1) **If I were you**, I would ask her for a date.
(もし僕が君なら、彼女をデートに誘うけどな。)
→ **Were I you**, I **would ask** her for a date.
- (2) **If we had known** you were in the hospital, we would have visited you.
(もし君が入院していると知っていたら、私たちはお見舞いに行ったのに。)
→ **Had we known** you were in the hospital, we **would have visited** you.

8. 「マリオは緊張するといつでも爪を噛む癖がある」
► 空欄の前後に文があり接続詞を入れる必要があるため、(B)whenever「~するときはいつでも」が正解。他はいずれも前置詞なので不可。
► (A)during「~の間(のあるとき)に/~の間ずっと」、(D)throughout「[場所]への至る所に、[時]～の間じゅう」。
□ whenever 「①[時]～するときはいつでも/②[譲歩]いつ～しても」

- (1) 『時』の副詞節を導く

I visit my uncle whenever I go to Osaka.

(大阪に行くときはいつも、おじのところを訪れる。)

- (2) 『譲歩』の副詞節を導く

You will be welcomed whenever you come.

(君がいつ来ようと、歓迎するよ。)

► 『譲歩』の意味を表す副詞節の場合は、**whenever = no matter when** で書き換えることができる。

[例] (2) → You will be welcomed **no matter when** you come.

9. 「今日車が壊れてしまったので、明日修理工場で修理してもらわなければならない」
► have A **done** は「A を～してもらう」の意味を表し、A と **done** は受動関係である。本問は it(=my car)と repaired の間に「車が修理される」という受動関係が成立する。(A)の、have A **do** は「A に～してもらう/させる」の意味で A と **do** は能動関係になるため不可。
□ **have[get] A done** [get のほうが口語的]
(1) 「A を～してもらう」〔使役〕
I **had** my hair **cut** at a famous beauty salon.
(私は有名な美容室で髪を切ってもらった。)

(2) 「A を～される」〔被害〕

I got my fingers caught in the train doors.

(私は電車のドアに指をはさまれた。)

(3) 「(自分が)A を～してしまう」〔完了〕

Have your essay finished by tomorrow!

(作文を明日までに書き上げてしまいなさい!)

10. 「なぜ医者になったのかと尋ねられて、ペニーは『私は常に他の人々を助けたいと思っていました』と答えた」

▶ have done は現在完了の継続を表し、「ずっと～している」の意味である。(A)は受動態であるため不可。(B)want は状態動詞であるため現在完了進行形にはできない。(D)would do は「～するだろう」の意味になり文脈に合わない。

11. 「一般大衆の間では、消費税を 10% に上げることに対してたくさんの反対がある」

▶ 空欄の後ろに to があるため, (C)opposition to ~「～に対する反対」が正解。他は, (A)argument over[about] ~「～についての議論」, (B)rejection of ~「～に対する拒絶」, (D)refusal to do「～することへの拒否」などのように用いる。

cf. **be opposed to** ~「～に反対している」 (= **be against**)

They were opposed to my proposal.

(彼らは私の提案に反対していた。)

▶ 「～に反対する」は **oppose** ~であるが, この **opposed** は叙述用法の形容詞である。

12. 「警察はあらゆる証拠を検討する前にその女性を逮捕した」

▶ (D)consider「～を検討する/よく考える」, (C)think は通例, 自動詞として用いられ about, of などの前置詞が必要である。(A)「決定する」, (B)「成し遂げる」では文意が成立しない。

cf. **consider A (to be) B** 「A を B とみなす」 (= **regard A as B**)

Consider yourself fortunate to have such a well-paid job.

(そんなに給料のよい仕事についているなんて好運と思わなきや。)

13. 「スーの心を乱すことは何も言わないようにしてね。とりわけ、ヘアスタイルのことは絶対言ってはだめよ！」

▶ 「スーの心を乱すこと」の具体的な内容が「ヘアスタイル」であるため, (A)above all 「とりわけ,特に」が正解。その他の選択肢は, (B)all in all「概して, 全部で」, (C)overall「全体として」, (D)one for all「一人はみんなのために」という意味。

□ **above all (things)** 「とりわけ/中でも」 (= **especially**)

Bill is fair, hardworking, and above all honest.

(ビルは公平で, 勤勉で, とりわけ正直だ。)

□ **make sure that** 節 「必ず～するように手配する/～を確かめる」

He made sure that the job would be properly done.

(彼はその仕事がきちんとなされるように手配した。)

▶ **make sure** の後は **that** 節のほか, **of + 名詞** が続く。

Search your pockets again to make sure of it.

(もう一度ポケットを探してそれを確かめなさい。)

14. 「競技場の群衆はディヴィッド=バークーがサッカーの試合に出てきたのに気付くと、大きな歓声でその登場を迎えた」

▶ his presence が目的語であるため, (B)acknowledged「迎えた, 認めた」が適切。

▶ (A)credited は「～を信じた」の意味。(C)responded「対応した」, (D)reacted「反応した」は自動詞なので不可。

15. 「スミス教授は厳しいが公平だという評判だ」

▶ 文意より, have a reputation for ~「～だという評判である」となる(A)reputation 「評判」が正解。(B)character「性格」, (C)standard「基準」, (D)status「地位」はいづ

れも文脈に合わない。

16. 「ああ、レジー、また遅刻か。今度はどんな言い訳があるのかね」

- ▶ You have got something to say「あなたは言うべき何かを持っている」(have got=have「持っている」)の something が疑問詞 what になって前に出たと考えるとよい。say for oneself「言い訳をする」, つまり「どんな言い訳があるのか」の意味になる。
- ▶ (B)excuse は「言い訳する」の意味があるが, excuse oneself の形で使うので不可。(C)explain「説明する」, (D)reason「推論する」は文意が成り立たないため不可。
- **have (got) something to say for oneself** 「言い分がある/弁解できる」

What have you got to say for yourself?

(失敗をとがめて)理由は何ですか。)

17. 「この問題を話し合うために集まる必要があります。いつなら都合が良いか教えてもらえないですか?」

- ▶ available には「(人が)都合がつく;手が空いている」の意味があるため(B)が正解。
- ▶ (A)acceptable「(提案などが)受け入れられる」, (C)possible「(事が)可能な」, (D)convenient「(日時などが)都合が良い」はいずれも「人」を主語に取ることができないため不可。

- **get together** 「(人が会議・飲み会などで)集まる」

We got together and discussed it.

(我々は集まってそれを話し合った。)

- **available** 「入手できる,利用できる/(手が空いて)会うことができる」

▶ available が名詞を修飾する場合は, 名詞の後ろに置かれることも多い。

This is one of the best libraries available.

(これは利用できる最良の図書館の 1 つだ。) [best available libraries も可]

18. 「いったんソフトをインストールしてしまったら、店に返品することはできません。この規則に例外はありません」

- ▶ (C)exception to ~「~に対する例外」が正解。

[例] There are some exceptions to every rule.

(例外のない規則はない。)

- ▶ (A)permission「許可」に to~は続かない。 (D)opposition to ~「~に対する反対」の形はあるが, 文脈に合わない。 There is no doing で「~することはできない」の意味だが, (B)の deny は他動詞であり, 後ろに前置詞 to がつかないため不可。

19. 「トムはプロに転向する前、8 年間アマチュアのテニスの選手をやっていた」

- ▶ turn には第 2 文型の用法で「~になる」という意味がある。よって(D)turning が正解。

[例] The milk turned sour.

(ミルクが酸っぱくなかった。)

- ▶ (A)は be 動詞で「~である」という状態を表すため不可。 (B)と (C)はどちらも形容詞を続けることはできないため不可。

20. 「マークは本当にいいやつだ。他の人とうまくやっていける」

- **get along with ~** 「~と仲良くやっていく」 (= get on with ~)

She can't get along with her roommate.

(彼女はルームメイトと仲良くやっていけない。)

cf. get along[on] 「(なんとか)やっていく,暮らしていく」

How are your parents getting along[on]?

(ご両親はいかがお暮らしですか。)